

夢ある農業を応援します

株式会社中セキ北海道

営業企画部 部長 中 村 元 紀

はじめに

まずは、この度の豪雨により被害を受けられました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

一日も早く復旧されますよう心からお祈り申し上げます。

中セキ北海道では被災地域の復旧に向け、地域の皆様と一体となって、全力で取り組んで参ります。

さて、北海道農業は、明治の開拓期以来、厳しい自然条件を克服しながら逞しく変貌を遂げ、冷涼な気候や広大な耕地面積を活かした高能率体系を確立し、今や日本の食糧基地として、その存在を確固たるものとしております。

また、品種・品質改良も進み、多くの全国区ブランドも育ち、世界的な食料供給が大きな問題となる昨今、北海道農業は、わが国の自給率向上のため、さらにその存在感を強めております。

私たち中セキ北海道は、半世紀以上にわたり蓄積した北海道での技術と経験を活かして、より一層、地域の特性に即した農業機械やサービスのご提供に尽力し、北海道農業の発展に貢献して参りたいと考えております。

具体的には、農業機械の販売、修理のほか、農業施設の建設事業、コイン精米機事業のほか、広大かつ多様な北海道ニーズに対応すべく、アグリ事業部にて独自の商品開発、製造、販売を行い、道内四七の営業所、四四五名の従業員が誠意ある営業活動とサービスで地域農業の発展に貢献して参ります。

沿 革

一九六〇年（昭和三五年）「空知中セキ販売」として、道内にはじめて「中セキ」という名前の付いた販売会社が設立されたのを皮切りに、「北央中セキ販売」

「札幌中セキ販売」「北海道中セキ販売」「旭川中セキ販売」など道内全域を網羅する販売会社網が整備されました。以後、変革を続ける北海道農業に対応すべく統合を繰り返し、二〇〇二年（平

成一四年）に現在の姿「道内広域1販社体制」が整い、社名を「中セキ北海道」とし、効率的に、強力に、北海道農家の皆様をバックアップさせていただいております。

畑作酪農推進部

当社では経営規模の大きな北海道農業に対応するため、いち早く、より効率的なAMAZON、KRONA、WELGERなど世界で一流とされる輸入作業機のご提案を行って参りました。

そのためには、商品のご紹介から、メーカーとの調整を含めたアフターサービスなど専門的な知識を必要とするため、

畑作酪農推進部は

輸入作業機のスペシャリストとして活動しております。

さらに、平成二七年には、帯広市内に「道東商品センター」を設立し、普及と大型化が進む輸入作業機の供給体制も強化し、



私たち中セキ北海道の社員は、

1. 誠意ある営業活動とサービスで地域農業の発展に貢献します。
2. 人の尊重と理解協力を基として、活力ある企業風土を醸成します。
3. 自己を磨き、常に挑戦心を持ち、何事にも前進努力を続けます。



引き続き、北海道農業に貢献できる商品のご提供に努めて参ります。

アグリ事業部

北海道農業に対応するため、井関農機の商品群を補完すべく、独自の農業機械の開発、製造を行っております。

需要地と開発の距離が近いことが強みで、ニーズに即した商品のご提供に努めております。



中でも、業界に先駆けて玉葱の機械化一貫体系を完成させ、道内主要産地の皆様に、広くご愛用いただいております。

その性能は道内のみならず農業構造が大きく変化している本州、九州方面でも注目、好評いただいで普及が広がっております。

夢ある農業応援団 ISEKI

井関農機は創立以来、農業機械の総合専業メーカーとしてわが国農業の近代化に貢献してまいりました。その間、一貫して農業の効率化、省力化を追求し続け、その過程のなかで数々の農業機械を他に先駆けて開発し、市場に供給してまいりました。

世界人口の増加と食料問題、また今日の食料自給率や国土保全の問題を考えると、農業機械メーカーの社会的使命はますます重要となってくると考えており

ます。

「需要家に喜ばれる製品の提供」を通して、わが国ならびに世界の農業に貢献することを経営の基本理念とし、「夢ある農業応援団」をスローガンに掲げ、ハード（農業機械）とソフト（生産管理や栽培技術）にわたる幅広い宮農提案を行い、お客様の「夢ある（＝儲かる）農業」を応援します。

その取組みの一つとして、井関農機では「夢ある農業総合研究所」を設立しました。

夢ある農業総合研究所は、行政や研究機関、大学、企業、JA関係の皆様と連携を強化し、日本農業が抱える課題解決策の一つとして期待を集めているスマート農業の研究・実証・普及を行う研究所です。

当研究所から農業に関する様々な情報を発信し、さらなる農業の発展に貢献してまいります。



また、井関農機は農林水産省の農業女子プロジェクトに参画しています。

これまで、日本全国でセミナーを開催し、多くのご参加をいただいているほか、農業女子の皆様の声を反映した「Z15しろプチ」を商品化いたしました。

これからもプロジェクトを積極的に展開し、女性農業者の皆様へのバックアップに努めて参ります。



中セキ北海道のこれから

北海道農業の発展とともに歩んできた当社において、これまで同様、「誠意ある営業活動とサービスで地域農業の発展に貢献」すべく、生産者の農業機械に対する多様なニーズに対応することはもとより、井関農機の動きにも呼応した有意義なご提案に一層努めて参ります。



農業女子プロジェクトにおいては、全国中セキグループの先陣を切り、現地講習会を本社にて開催した以降、俱知安、羽幌、由仁、土別と各地でセミナーを開催し、多くのご参加をいただきました。「Z15しろプチ」も、生産者や行政、各団体のイベントに引っぱりだこで、農業女子プロジェクトを幅広く知っていただく広告塔として大活躍しております。

今後も、女性農業者がお困りのこと、お望みのことに耳を傾け、「農業女子」の皆様が一層活躍されるよう、応援を続けて参ります。

また、ICTに代表される先端技術分野においても、当社はGPSの農業への活用にいち早く取り組み、その普及に貢献して参りました。

近年の農業労働力の不足とそれに対応する農政等の動きが呼応し、道内ではGPSを活用した自動操舵の普及が、爆発的に広がっており、その広がりには、まだまだ続くものと思われれます。

GPSを取り巻く環境も、RTK基地局などのインフラの普及に加え、続々と新たな商品が投入され、刻々と大きく変化を続けております。

そんな中、当社ではGPS関連商品はインブルメントとしての位置付けで普及を図って参りましたが、一部の商品では本機（トラクタや田植機）の性能や情報

（ビークルプロフィール）を必要とするようになっていきますし、アンテナやガイダンス本体を本機にどのように設置するかなど、本機側の取組みも必要になっております。

そこで当社は、インブル、本機の分け隔てなく、RTK等環境を含めた総合的な視線でICT技術の普及に取り組むべく、各部門からエキスパートを招集し、新たに「ICT SUPPORT PROJECT TEAM」を営業本部長直轄の下、発足いたしました。

ICT SUPPORT PROJECT TEAMは、当面は「自動操舵」を中心に、先端技術に関する研修会等の普及活動や技術面でのサポートのほか、井

関農機や官学との連携に努め、農家の皆様のお役に立てるよう尽力して参りますので、今後の活躍にご期待下さい。

ISEKI 4社4北海道ニュース

～ICT推進プロジェクト～ ICT SUPPORT PJ TEAM

<http://www.iseki-hokkaido.co.jp/wp/wp-content/uploads/2016/09/cats.jpg>

